

# 岩手チーム 4年ぶりV

## 全国郵政バレー大会

# 胆江選手も活躍

第44回全国郵政バレー大会は9月27-28日、広島市安佐北区スポーツセンターで行われ、男子の部で郵政岩手が決勝で郵政札幌を2-0のストレートで下し、4年ぶり3回目の栄冠をつかんだ。予選リーグで高橋貞禎主将が負傷退場するアクシデントもあったが、チームの総合力で勝ち切った。女子は地元の郵政広島が優勝に輝いた。



全国郵政バレー大会を4年ぶりに制した郵政岩手チーム—提供

ント1回戦で長崎をストレートで退けると、準決勝では強敵・大阪郵政に2-1のフルセットで勝利。郵政札幌との決勝戦に駒を進めた。

「チームは過去最高のレベル」と佐藤監督。「コンビネーションが全チームの中で一番だった」と笑顔で大会を振り返る。今大会では予選リーグで主将が負傷退場する予想外のピンチもあったが、選手同士がフォーメーション、攻撃パターンを練り直し、しっかりと対応。「チームが危機感を持って結束することができた」と選手個々の能力の高さと対応力を大きな勝因に挙げた。

郵政岩手は胆沢郵便局の佐藤安雄局長を監督に、県内の郵便局員で構成。今大会を含め全国大会に10年連続出場するなど全国屈指のチーム力を誇る。昨年の熊本大会では、準決勝で郵政札幌にマッチポイントを握りながら痛恨の逆転負け。今大会は「決勝へ行こう」を合言葉に掲げ、ブロック強化を中心に例年以上の練習を重ね、本番に臨んだ。

予選リーグは横浜、広島を相手に全勝で1位通過。決勝トーナメント1回戦では、セッター菅原亮太(胆沢郵便局)のトスワークが冴え、アタッカー陣が躍動。エースのレフト小野寺優宝(胆沢郵便局)が高いアタック決定率でチームを引っ張ると、センター・菊池翠(水沢郵便局)も精度の高いBクイックで着実に加点。レシーバーの及川竜弥(胆沢郵便局)が好レシーブを連発し、チームを盛り上げた。

来年の会場は名古屋。佐藤監督は「初めての連覇を達成したい」と気合十分。仲間たちとさらなるレベルアップを強く誓っていた。

## 奥州クラブが全国切符

### 全日本9人制バレー県予選

全日本9人制バレー 上総合体育館で行われ、ボール総合選手権大会 男子の部で奥州クラブが決勝で東根球友会を

2-1で下し、初優勝に輝いた。奥州クラブは来年1月24日に大阪市で開催する全国大会に出場する。同日行われた第3回県9人制総合選手権大会女子の部では、G.V.C清綾クラブが遠野クラブを2-0で退け、連覇を達成した。